

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1490200035
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家横浜羽沢2
訪問調査日	平成 19 年 8 月 13 日
評価確定日	平成 19 年 9 月 7 日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 #####

【評価実施概要】

法人番号	1490200035		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家横浜羽沢2		
所在地	横浜市神奈川区羽沢町990-8 (電話) 045-370-5281		
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年8月13日	評価確定日	平成19年9月7日

【情報提供票より】2019年7月11日

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	17 人
職員数	20 人	常勤	4人 非常勤 6人 常勤換算 10人

(2) 建物概要

建物構造	(軽量鉄骨)造り		
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	56,000 円	
敷金	有 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (7月11日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85,18 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	菊名記念病院 新横浜中央クリニック デンタルオフィス横浜
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営法人は多数のグループホームを運営しており、運営方針、ケア内容にかなりのノウハウが生かされている。法人独自に教育機関やサービス監査機関を設けて、日々サービスの質の向上を目指している。
独自の試みとして、足のむくみをとるマッサージや、顔のマッサージを行うシニアセラピーの導入、看取りの指針、職員と入居者も交えての勉強会がある。前回実施した勉強会は、歯科衛生士を中心にむせこみ、誤嚥、口腔の衛生について、勉強し、入居者内での意識も高まった。交通量の多い道路や、畑、坂、団地に囲まれている立地であるが、職員一丸の努力で地域に溶け込んでいる。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>開設して1年で、今回が初めての外部評価です。法人内に「社内のサービス監査機構」が設けてあり、社内での改善体制もしっかりできています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、全職員がかかわって、内容に疑問のある人は管理者と話し合ってから記すなど、取り組み方が真剣です。2ユニットとも自己評価は類をみないほど、全項目とも克明に記載されています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>調査日の2週間後に第1回目の「運営推進会議」が予定されていて、調査時には内容は把握できませんでした。家族や入居者も交えての会議を心待ちにしている様子が伺えました。災害時の応援なども、運営推進委員会を通して、頼みたい項目など、具体的に考えています。評価の結果は、運営推進委員会とリンクしていく意向です。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>入居者の日常は、毎月の新聞や「一言通信」、電話などで通達されています。家族からの意見や疑問点はいままでのところ、直接に進言してくれています。苦情窓口や公の相談所は公開していますが、今後も、家族が言いやすい雰囲気のあるホームと感じてくれるよう、家族とのコミュニケーションを大切にしています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>このホームの一番優れている点は、地域への溶け込み方です。開設時の内覧会では不満や苦情が寄せられましたが、ホーム側から折に触れ、近隣への溶け込みに配慮した結果、畑で取れた野菜や花の差し入れ、お手玉や雑巾の差し入れなどがあり、職員一同感謝しています。近所の人もお茶のみをすいたり、一夜しか咲かない月下美人が咲くのを一緒に楽しもうと、持ち込んでくれる近所の人もあります。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	18年7月1日に開設したグループホームである。開設後、2、3か月を経て入居者が次第に集まったときに、管理者、職員、入居者で「ここでどのようにすごしたいか」を話し合った。「自分らしく楽しくともに生きる」という理念は、そのときに皆で話し合って、できたものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は入居者ありきのグループホームであることを踏まえて、朝礼、ユニットごとのミーティング時に理念が染みとおるよう、常に職員に話している。過度のサービスよりも必要なサービスをと、ケア内容にも生かされるよう、折々の機会を捉えて、話し合い、指導している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設当初は、近隣の方たちの抵抗が感じられたが、施設側から積極的に近所の方に挨拶をするようにした。通りがかる人をお茶に誘ったり、団地の子供を呼んでハロウィンパーティをして、交流を積み重ねてきた結果、今では野菜やお花を届けてくれるなどの交流が生まれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、ユニットごとに自己評価項目を渡し、各ユニットごとのやり方で記載したものを管理者がまとめた。職員が個々に質問の意味を管理者に尋ねてくるなど、職員の意識向上にも役立った。評価の結果は、全職員、家族、見学者などに公表し、改善に取り組む姿勢である。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	8月27日に1回目の運営推進委員会を開催する。地域包括支援センターの方、民生委員、町内会長、ホームの家族、利用者が集まる機会が持てることを全職員で心待ちにしている。評価の結果が出たら運営推進会議ともリンクして、サービス向上に生かしていきたいと考えている。		

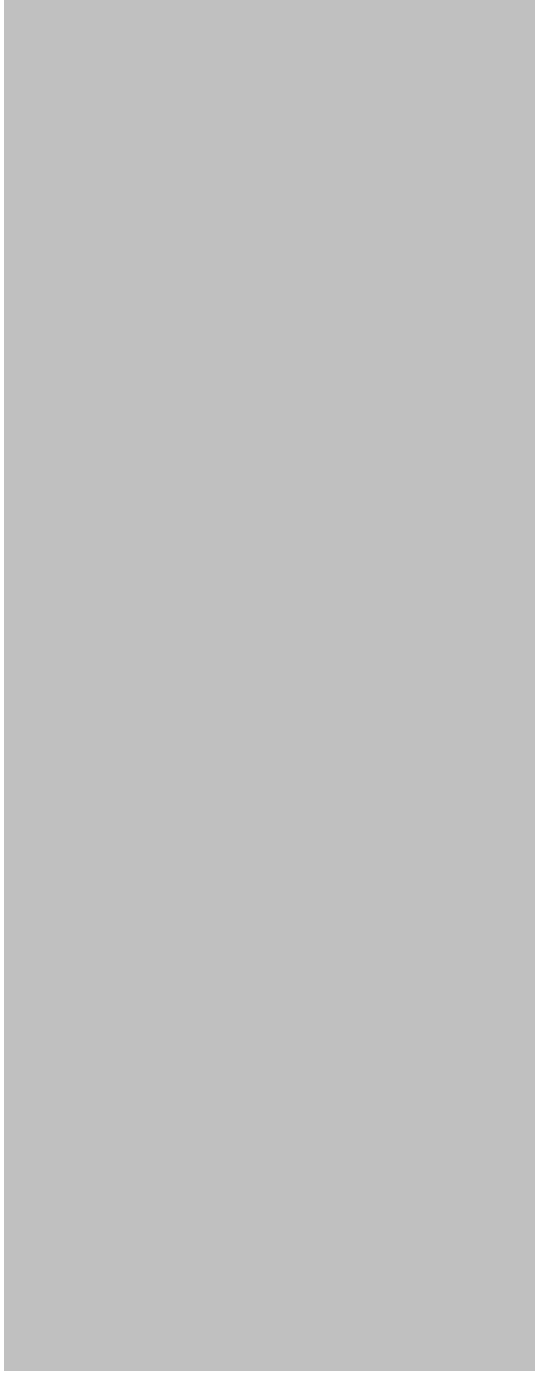
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の介護保険課、高齢福祉課、生活保護の窓口にはこちらから出向いて近況報告をしている。他に公のところの付き合いとして、交番の巡査に巡回をお願いし、暇なときにはお茶のみにも寄ってくれるなどの交流がある。小学校のふれあいサービス祭りにも参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	新聞を毎月編集してくれる職員がいる。家族には新聞、一言通信(身体状況や、日々の様子を記載したもの)、出納帳を郵送している。急な場合は電話でも様子を伝えている。またパソコンでCD-Rに録画し、家族に郵送している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時、家族の面会時には公の窓口のほか、法人にも窓口があることを伝えている。玄関に福祉保険サービスに不満がある場合の窓口として、ホームと公以外に「横浜市福祉調整委員会事務局」のポスターが張ってあった。家族から疑問点を寄せられた場合は、事実確認をして、納得するまで話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットで管理者が1回ずつ移動したが、ホーム長は開設当初からいるので、入居者に混乱はない。法人側でもその点は心配りしている。各フロアーの職員は、入居者になじんでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員は営業本部で採用、パートは現場採用にしている。法人に教育機関があり、教育体制は整っている。新人は初日はオリエンテーション、その後は現場でマンツーマンで教育している。社内研修は多々あり、希望者は誰でも行くことができる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入の手続きを申請中である。地区内にある特別養護老人ホームから納涼祭の誘いが来て、楽しみにしている。今後は、法人以外のグループホームとの交流も心がけていきたいと考えている。		

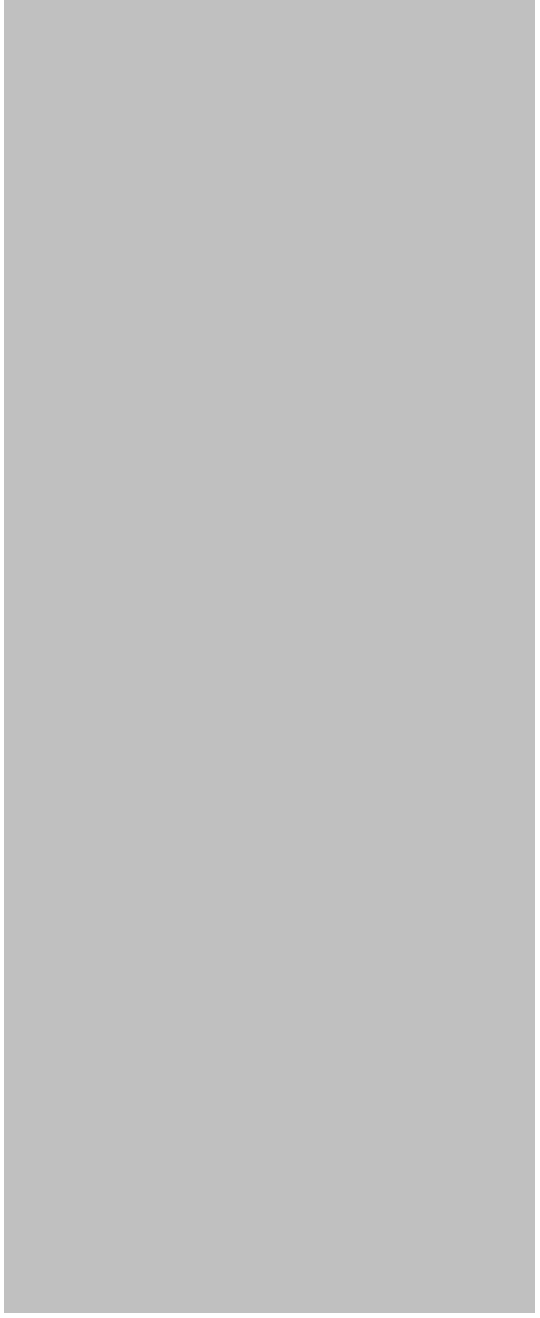
外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居申込者は自宅、病院とさまざまだが、その人の都合に合わせて管理者が病院、自宅に向いて入居前の状態を把握している。本人が望んでくるよりも、家族の意向で入居になる例が多いので、ホーム内になじむまで、こまめに対応して不安感をとりのぞいている。懐かしい音楽を流して、心和むよう工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>リビングに出てこない人、ちょっと落ち込んでいる人の部屋には、職員側からご機嫌を伺いに行っている。「ちょっと話したい」など入居者側から声をかけられると、部屋で落ち着いて話を聞いている。管理者以外にも信頼し合える職員と個々に話し合う時間を作るなどして、心のスキンシップで安定した関係を作っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お化粧を好む人の希望で、連れ立ってタクシーで化粧品の買い物に行くことがある。本が好きな人は、管理者と本の貸し借りをして楽しんでいる。選挙に行く人には付き添っていくなど、本人の意向を大切にしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ユニットごとのミーティングでのカンファレンスのほか、毎朝と夕方の申し送り時にもミニカンファレンスをしている。それらをもとに、本人の意見も入れてケアプランを作っている。家族には見せて、了解を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則として3ヶ月ごとに見直しているが、継続の例もある。状態変化の場合は、随時行っている。例・夜間トイレは手引き誘導であったが、転倒しやすいので、夜間のみパットに変更し、定時交換にするようにした。家族の了承も得たなど具体的なプランとなっている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	運営法人は、姉妹施設を潤沢に持っている。入居者の状態によっては、近じか開設する新横浜の有料老人ホームへの移動も可となる。また、医療連携加算をとっていることで、24時間医師や訪問看護師と連携がとれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いままでのかかりつけ医との信頼関係は大事にして、ホーム入居後も継続して受診でき、往診を受けることも可能である。当ホームの提携医もいるので、そちらを希望する人は、そのように対応している。提携医以外の受診は家族、または自費ヘルパーが付き添う。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人には「看取りの指針」が用意されている。重度化した場合は、往診医、家族、ホームで話し合っ、可能であれば当ホームに最期までいられるとしているが、まだ事例はない。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	当日、居室を見せてもらう際に、本人にその場で断ってから見せていただいた。巡回用のドアののぞき窓は、本人が折り紙や、ちりめん布で目隠しをしているが、その範囲内での巡視にとどめている。食事のときにエプロン着用を嫌がる人がいたが、無理強いせず、ひざ上だけにとどめていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食後に一人ずつ「今日はどのように過ごしたいですか」と聞いて、対応している。現在はいないが、以前喫煙する入居者がいたときには庭の parasol 下に灰皿を置いて、吸えるようにした。おしゃれが好きな人のために福祉美容師を呼んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員と入居者でおなじ食卓に座り、同じものを和やかに食べている。食後の食器ふきなども入居者がお手伝いをしている。家族も含めてのバーベキュー時には、入居者と職員で100個のおにぎりを作った。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者は、浴室の壁に星を飾って楽しんでいる。みなさん入浴が大好きで、毎日入りがたがる。介助なしの人は毎日入れるが、介助を要する人は3日に1度は入る。1階はリフト浴があり、車椅子の人も介助されながら、入浴をゆったり楽しんでいる。1階の浴室の洗い場が広く、介助しやすい。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お茶碗ふき、部屋の掃除、洗濯物たたみなど日常的なことの他、今年は庭のイチゴがたくさんとれて、ジャムやジュースを作った。手先の器用な人は広告の紙でゴミ箱を作っている。1階にはカラオケがあり、2階は歌番組のビデオを見ながら歌うのも楽しみにしている。たまに職員がペットを連れてくるのも喜ばれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの駄菓子屋におやつを買いに行ったり、神社に散歩に行くことも多い。外出が負担になっているレベルの人もいるので、庭の parasol の下で、いすを並べて外気浴やお茶のみをしている。近所の人も寄っていく。雨の日などは室内で、テレビ体操やリハビリ体操をする。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ベランダと勝手口は常に開いているが、玄関は防犯上施錠している。時折、怪しげな人が来ることもあり、家族の許可を得ている。玄関をあけてという声には即対応している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署から消火器の点検にはきて頂いたが、避難訓練はやっていない。9月1日の防災の日にあわせて、準備している最中である。運営推進委員会でも、今後の連携も含めて応援をお願いしていく。		いつなごとき、何があるかわからないので、訓練することが望まれます。ADLの低い人もいて、大変ですが工夫を重ねて望んで、更に消防署の応援も頼むとさらによいと思われれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は配食会社を利用しているので、栄養管理はそちらで配分してくれる。バイタル表があり、食事量、水分量などは記載されている。水分補給には気配りし、ハーブティー、緑茶、こぶ茶など好みのものを1日1200CC飲用している。個人のケア記録にもミルクティー、コーヒーを何時に飲んだなどの記録がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は明るく広く、靴の着脱に便利のようにいすが置いてある。建物全体はバリアフリーで、エレベーター完備。浴室、脱衣室にエアコンがあり、温度差への配慮がある。リビングは網戸にしてあり、外からの風を入れて、自然に触れるように配慮している。くつろぎ用のソファがあり、庭の parasol も大活躍である。小花を食卓に飾などの気配りもみられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台が設置されている。ベッドとチェストは備えつきだが、それぞれ自分のなじみの小筆筒、いすなどを持ち込んでいる。家族の写真を張ったり、紙細工のものを飾ったり、テレビを持ってきている人もいる。それぞれ工夫されて、安住の場になっている。		













自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家 横浜羽沢2
(ユニット名)	1U
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区羽沢町990-8
記入者名 (管理者)	濱名 裕恵
記入日	平成19年 7月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【自分らしく楽しく共に生きる】の理念のもと利用者一人ひとりが散歩や近隣の方とお茶会、お祭り等を通してお付き合いしている。事業所のイベント等もご参加いただき生活の場に地域との関わりが持てるようにしている。		ホームでの生活を見学いただいたり、地域交流の場としてのホームの開放も検討中。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	【必要な人に必要なサービスの提供を】のもと個々の必要なサービスは何か本人、ご家族の意向を伺い、介護計画に取り入れ常にカンファレンスや申し送りで周知、対応している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	レクや行事、地域の行事参加等で利用者や地域の方が関わり、過ごしていけるようにしている。またご家族へは毎月のお手紙等で地域交流の場への参加報告等もしている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの敷地内にいすや灰皿、パラソルを設置しいつでも立ち寄れるスペースを作っている。また、農作物やお花等ホームに飾ってと持ち寄ってくれる。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の自治会の催しへの参加や、お祭り等お声をかけていただき参加させていただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣のかたがたとベンチでお茶を飲んだりお話をしたりする中で、高齢者の暮らしや行政の動き、地域とグループホームとの関わり等常にお話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	社内のサービス監査や評価、指摘された点等は職員に申し送りノートや朝礼、スタッフミーティング等で周知し改善していくようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			運営推進会議の取り組みについては横浜市や神奈川区の説明がまだなされていないため整い次第開催したいと考えている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			事業所の行事や取り組みの様子等を新聞作りで紹介しているので見学や参加をお願いしていきたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			今後の事業所の研修項目にし、職員に周知していきたいと考えている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がコミュニケーションをとり利用者の異変や痕跡に気づくよう常に申し送り、ミーティングで確認している。異変や虐待に気づいたらホーム長に報告することとしている。事実関係の確認及びヒヤリハットの作成をし、周知するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時や解約時は管理者または担当者が細かく説明し、納得いただけるまでお話をさせていただいている。また、事業所以外でも、不安な事柄などあれば入居担当窓口を設置しているので利用いただける。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者別の申し送りノートやカンファレンス等で本人の状態や希望を職員全員で話し合い、解決できるよう対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状況や金銭管理、健康状態等は毎月のお手紙を郵送している。また、状況に応じて電話でもお話をさせていただいている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、電話等でいつでもお話を伺い、カンファレンスや申し送り等で話し合い、対応している。ただし、ホームの運営により対応できること、お話が無理な内容の時などはご家族としっかり話し合い、理解していただいている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のスタッフミーティング(1階、2階)と随時全体会議で一人ひとりの意見を聞く機会を設けている。また、朝礼や申し送り時にも提案の場はある。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>近隣のスタッフや時間によって動けるスタッフの連絡網を作成しており、勤務調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>状況に応じて、個人面談や相談の場を設け、心理的な不安を取り除けるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は項目別に必要なもの、受講したいものを受講できるようにしている。そのための勤務調整も対応している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			地域の連絡会の活用や講習会、他施設のイベント等の参加もしていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シニアセラピーの導入や職員の状況に合わせたユニットの配置買え等本人と話し合い対応している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の勤務状況の把握や姿勢、自己啓発等含め、年に2回の考課を行い適正な評価をする事で意欲的に働くことができる様努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々の居室でその方が落ち着いている状態で伺うようにしている。内容により、ご家族や、友人、地域の方等の協力をあおぐこともある。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や電話等、あるいは、日程を調整し話し合いの場を持つようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の対応以外に必要なサービスがある場合、情報を伝え、ご家族と相談している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、ご家族の意向、本人の現状を話しあい、本人が何を一番望むのか考えご家族にも協力いただき介護計画を立て日々のサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重し、できること、できないことを一緒に考え、共同生活を落ち着いて過ごせるよう支えあえる関係、環境づくりをしている。本人が、信頼している職員と個々に話し合える時間を持ったりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思い、要望等を電話や手紙、面会時のお話等で伺い、何が本人の望みなのかどうしたいのかを一緒に考えていける関係作りができています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴、生きて行くうえでの考え方、物事の捉え方等電話や手紙、面会時のお話で伺い、情報を集め支援に生かしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、友人、知人が気軽に来れる生活の場としていい関係でお付き合いできるよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の状況を理解し、お互いが協力し合い生活する場として相手を受け入れられるような環境作りや声掛け、話し合いをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状やお手紙等、送らせていただいている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で話し合い、対応している。難しい場合は、ご家族、本人と話し合い出来得るところまでの対応をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りやご家族等からの情報、実態調査表等を職員間で周知徹底している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りや、生活記録、食事摂取や血圧測定、本人の行動や言動等で職員は把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族との話し合いの場を設け、本人の変化に合わせて、計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、ご家族との話し合いの場を設け、本人の変化に合わせて、計画を立てている。ご家族と連絡を取り、必要であれば専門家の情報も準備し今後の対応を協議している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の対応として、生活記録や個別の申し送りノートの活用、ケアカンファレンスの記録等で本人の状態を考え介護計画に組み込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々の状況に応じて、訪問美容や自費ヘルパーの紹介等している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の交番の方に見学していただき、パンフレットをお渡ししたり、入居者の方が楽しみを持てるよう地域の日本舞踊のボランティアの方をご招待したりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院介助等ご家族が対応できないときなどのために自費のヘルパー登録先をご紹介したりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			今後、勉強会や研修等取り組みたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が居る方は継続して適切な医療をうけていただき、往診医に引き継いで欲しいとの依頼があればそのように対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医の定期受診時や電話等で相談したり、外部の受診等された方の情報等はファックスで報告したりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診時の担当看護師と相談したり、入居者の情報を共有したり、訪問看護師とも訪問時や電話等で情報を共有している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の相談室担当者の方と密に連絡を取り合い、状況を聞いたり面会に行ったりして帰設の時期等相談したりしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に今後の方向性を話し合い、重度化した場合等は、当社の看取りの指針や重度化の指針に基づき、医師、ご家族、本人とホームで話し合いの場を持っている。その内容については、個々の申し送りノートや朝礼、毎日の申し送り等で周知徹底し、介護計画にも組み込んでいる。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ケアカンファレンスや申し送り等でホームとして出来ること、出来ないことを話し合い、医師、本人、ご家族と話し合い、支援に生かしている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーの提供や生活暦の中での特記事項等伝えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>共同生活の中で入居者同士や関わるスタッフが心無い対応をしないよう常に申し送りや朝礼等で話している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来ること、出来ないこと、したいこと、したくないことをいつでも話せる環境であるようにしている。個々の居室で話したり、スタッフルームで話したりしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一日のスケジュールは決めておらず、その日入居者と何をしたいか話すようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お洒落に気をつけている方でも、身体的になかなか外へ出られないので福祉美容室や地域の美容室に依頼し、事業所にきていただいている。入居者はとても喜ばれている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>イベント時や誕生日等何が食べたいのか入居者に聞き、一緒に準備し食べる楽しみを持っていただけるように対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族、医師、本人が話し合いをしたうえで出来る限り望むよう支援したい。飲み物については個々の好みを伺い決めていただいている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状況を排泄チェック等で把握し、時間を見ながらトイレへと促し、または介助している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタル測定で問題なければ、その方が入れる、入りたい時間に入れるようしているが すべての方が望む時間とは限らない。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状況により、対応を変えている。日中休息をとることで生活パターンが崩れる方もいるため。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の出来ることで役割を持っていただき、生きる、生活することに楽しみを持てるよう話し合い、支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物のレクや地域のイベント等でお小遣いを持っていただき楽しんでいただいている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴、買物等手作業等もみんなでやったり、個々で対応したりしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と話し外食にお出かけしていただいたり、外泊等で気分転換していただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のもとや、知人についてはご家族から了解を得ている場所にかけていただいている。		不定期でも絵葉書等大切な人に送るよう支援していきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の居室に案内し、ゆっくり過ごしていただくようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的に例を挙げ、職員に周知徹底している。		ご家族の希望が歩かせない、怪我させないの方がいたが話し合いをし、どこでも生活していれば転倒やそれによる怪我についても在り得ることなので本人の希望も含め話し合い、統一した支援をしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	洗濯を干したり、植木に水をまいたりと活動することもあるので、開放している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングで過ごしている方、居室に戻られる方、巡視や訪室による安否確認をしている。その様子を生活記録に記載し申し送るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや針、かみそり等安全、危険の理解度を検討し、個々に対応している。		ご家族や知人が居室に置いていき、危険であることも多いのでご家族と話したり、居室整備の際等にチェックし対応していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況の把握に努め、申し送りやカンファレンス等で話し合っって巡視回数を増やしたり、本人と話し合ったりしている。また、リスクマネジメントの講習内容等の参加や報告をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応の方法は周知されているが、訓練は出来ていない。		定期的に訓練をしていきたい。現実に緊急対応が起こったときに落ち着いて行動が出来ると考える。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路図の提示や地域の避難場所はわかるが訓練をしていない。		車椅子の方歩行不安定な方など様々なので、定期的に避難訓練をしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状況を把握し、現状をご家族に伝え、その方らしく暮らしていくための方法を電話や手紙や面会時等にはなしあっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定、排泄表や申し送り、本人の話等でスタッフ間で周知し状態に応じて対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録を見たり、往診時に同席したり、定時薬のチェックや変更時の確認等し、申し送りや個々の記録に記載している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が続く方は、水分補給や体操など動くよう声かけしたりしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	状況に応じて出来ない方のお手伝いや、毎食ではないが行っている。また、往診歯科による口腔衛生指導を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食数表や生活記録に個々の食事形態の記入やどの程度の摂取か、嗜好も含め、記入している。また、体調の変化や身体状況の低下等で今までの食事形態が厳しい場合等は医師、往診歯科衛生士に相談し形態の変更もしている。水分摂取が困難な方は種類を色々変えて嫌がらずに摂取できるよう工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後、食事前のうがい、手洗いの励行、マニュアルの回覧や講習、感染症に関しては入社時に研修を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水回りやまな板、布巾食器の消毒、洗浄、冷蔵庫の殺菌等行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチやパラソルを置き、ベランダや勝手口も開放し、花壇や植木をおいている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを入居者とつくり、飾ったり、癒しの音楽を流したりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席と決めている方も居るが、ソファを置き、くつろげるように空間を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや化粧箱、写真等いつでもお持ちいただくようにしている。馴染みの物があることで落ち着かれることがあるので個々の家族にお話している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気、温度調節している。個々の居室も本人の状態や時間帯に合わせてエアコンの調整等対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方、自立の方が動きやすいよう椅子やテーブルの位置を考えたり、している。トイレや共有部分には手すりを取り付けており、不安なく移動、歩行できるようにしている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わからないという事で混乱されたりした場合、スタッフが時間をかけ納得するまで話している。その上で出来ることを一緒に考え役割を持っていただくようにしている。トイレや浴室、台所へは目印をつけ、個々の居室入り口にも本人がわかりやすいものを目印につけたりしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に苗や種をうえ、散歩や外気浴等でお花を摘んだり、ベンチでお茶会をしたりして楽しまれている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活を通して、地域の方々と関わり、一緒にお茶を飲んだりお話したり、花壇作りや畑の作物について教えていただいたりと地域にやっとなじんできたと思います。また、レクや行事を通して地域交流を深め、いつでもホームに遊びに来ていただけるようお声掛けしたり見学に来ていただいたりしています。開所前から地域の方々の不安があったようですが、最近では、農作物を届けてくれたり、雑巾やお手玉を寄付してくれたりと本当に素敵なお付き合いが続いています。地域の方に感謝し、入居者がこれからも落ち着いた生活ができ、ホームが地域交流の場になるようスタッフ、入居者と共に暮らして生きたいと思います。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家 横浜羽沢2
(ユニット名)	2U
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市神奈川区羽沢町990-8
記入者名 (管理者)	濱名 裕恵
記入日	平成19年 7月 12日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>【自分らしく楽しく共に生きる】の理念のもと利用者一人ひとりが散歩や近隣の方とお茶会、お祭り等を通してお付き合いしている。事業所のイベント等もご参加いただき生活の場に地域との関わりが持てるようにしている。</p>	<p>ホームでの生活を見学いただいたり、地域交流の場としてのホームの開放も検討中。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>【必要な人に必要なサービスの提供を】のもと個々の必要なサービスは何か本人、ご家族の意向を伺い、介護計画に取り入れ常にカンファレンスや申し送りで周知、対応している。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>レクや行事、地域の行事参加等で利用者や地域の方が関わり、過ごしていけるようにしている。またご家族へは毎月のお手紙等で地域交流の場への参加報告等もしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームの敷地内にいすや灰皿、パラソルを設置しいつでも立ち寄れるスペースを作っている。また、農作物やお花等ホームに飾って持ち寄ってくれる。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>近隣の自治会の催しへの参加や、お祭り等お声をかけていただき参加させていただいている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣のかたがたとベンチでお茶を飲んだりお話をしたりする中で、高齢者の暮らしや行政の動き、地域とグループホームとの関わり等常にお話している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	社内のサービス監査や評価、指摘された点等は職員に申し送りノートや朝礼、スタッフミーティング等で周知し改善していくようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			運営推進会議の取り組みについては横浜市や神奈川区の説明がまだなされていないため整い次第開催したいと考えている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			事業所の行事や取り組みの様子等を新聞作りで紹介しているので見学や参加をお願いしていきたいと考えている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			今後の事業所の研修項目にし、職員に周知していきたいと考えている。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がコミュニケーションをとり利用者の異変や痕跡に気づくよう常に申し送り、ミーティングで確認している。異変や虐待に気づいたらホーム長に報告することとしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約時や解約時は管理者または担当者が細かく説明し、納得いただけるまでお話をさせていただいている。また、事業所以外でも、不安な事柄などあれば入居担当窓口を設置しているので利用いただける。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者別の申し送りノートやカンファレンス等で本人の状態や希望を職員全員で話し合い、解決できるよう対応している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の状況や金銭管理、健康状態等は毎月のお手紙を郵送している。また、状況に応じて電話でもお話をさせていただいている。ホームの新聞も毎月作成しご家族へお渡ししている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時や、電話等でいつでもお話を伺い、カンファレンスや申し送り等で話し合い、対応している。ただし、ホームの運営により対応できること、お話が無理な内容の時などはご家族としっかり話し合い、理解していただいている。また、苦情やご意見をいただけるよう意見箱の設置もしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1回のスタッフミーティング(1階、2階)と随時全体会議で一人ひとりの意見を聞く機会を設けて反映させている。また、朝礼や申し送り時にも提案の場はある。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>近隣のスタッフや時間によって動けるスタッフの連絡網を作成しており、勤務調整している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>状況に応じて、個人面談や相談の場を設け、心理的な不安を取り除けるようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修は項目別に必要なもの、受講したいものを受講できるようにしている。そのための勤務調整も対応している。新人職員にはベテランのスタッフと一緒に実践で伝えていく。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			地域の連絡会の活用や講習会、他施設のイベント等の参加もしていきたい
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シニアセラピーの導入や職員の状況に合わせたユニットの配置買え等本人と話し合い対応している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の勤務状況の把握や姿勢、自己啓発等含め、年に2回の考課を行い適正な評価をする事で意欲的に働くことができる様努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	個々の居室でその方が落ち着いている状態で伺うようにしている。内容により、ご家族や、友人、地域の方等の協力をあおぐこともある。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や電話等、あるいは、日程を調整し話し合いの場を持つようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事業所の対応以外に必要なサービスがある場合、情報を伝え、ご家族と相談している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者、ご家族の意向、本人の現状を話しあい、本人が何を一番望むのか考えご家族にも協力いただき介護計画を立て日々のサービスを提供している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の意思を尊重し、できること、できないことを一緒に考え、共同生活を落ち着いて過ごせるよう支えあえる関係、環境づくりをしている。本人が、信頼している職員と個々に話し合える時間を持ったりしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思い、要望等を電話や手紙、面会時のお話等で伺い、何が本人の望みなのかどうしたいのかを一緒に考えていける関係作りができています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴、生きて行くうえでの考え方、物事の捉え方等電話や手紙、面会時のお話で伺い、情報を集め支援に生かしている。また、ホームでの生活については、正直に伝え、問題が生じた場合は一緒に考え統一した見解を持ち対応する。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、友人、知人が気軽に来れる生活の場としていい関係でお付き合いできるよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の状況を理解し、お互いが協力し合い生活する場として相手を受け入れられるような環境作りや声掛け、話し合いをしている。孤立した入居者については1対1でちゃんと話し合いその後落ち着いてから共同作業等する。		スタッフの声掛けや役割を持って生活することで助け合っ て生きていくということを伝え続ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	年賀状やお手紙等、送らせていただいている		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンス等で話し合い、対応している。難しい場合は、ご家族、本人と話し合い出来得るところまでの対応をしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りやご家族等からの情報、実態調査表等を職員間で周知徹底している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りや、生活記録、食事摂取や血圧測定、本人の行動や言動等で職員は把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族との話し合いの場を設け、本人の変化に合わせて、計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人、ご家族との話し合いの場を設け、本人の変化に合わせて、計画を立てている。ご家族と連絡を取り、必要であれば専門家の情報も準備し今後の対応を協議している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や個別の申し送りノートの活用、ケアカンファレンスの記録等で本人の状態を考え介護計画に組み込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームでの生活が困難になった場合等姉妹施設への移設や逆に要支援になった場合は介護付有料老人ホームへの移設も可能である。		
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	近所の交番の方に見学していただき、パンフレットをお渡ししたり、入居の方が楽しみを持てるよう地域の日本舞踊のボランティアの方をご招待したりしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院介助等ご家族が対応できないときなどのために自費のヘルパー登録先をご紹介したりしている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居についての問い合わせやパンフレット送付等の対応はしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が居る方は継続して適切な医療をうけていただき、往診医に引き継いで欲しいとの依頼があればそのように対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診医の定期受診時や電話等で相談したり、外部の受診等された方の情報等はファックスで報告したりしている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診時の担当看護師と相談したり、入居者の情報を共有したり、訪問看護師とも訪問時や電話等で情報を共有している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院の相談室担当者の方と密に連絡を取り合い、状況を聞いたり面会に行ったりして帰設の時期等相談したりしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			入居時に今後の方向性を話し合い、重度化した場合等は、当社の見取りの指針に基づき、医師、ご家族、本人とホームで話し合いの場を持っている。その内容については、個々の申し送りノートや朝礼、毎日の申し送り等で周知徹底し、介護計画にも組み込んでいく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている			ケアカンファレンスや申し送り等でホームとして出来ること、出来ないことを話し合い、医師、本人、ご家族と話し合い、支援に生かしていく。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーの提供や生活暦の中での特記事項等伝えるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>共同生活の中で入居者同士や関わるスタッフが心無い対応をしないよう常に申し送りや朝礼等で話している。</p>	<p>個人記録を入居者が見ることがあるので、管理に気をつける。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>出来ること、出来ないこと、したいこと、したくないことをいつでも話せる環境であるようにしている。個々の居室で話したり、スタッフルームで話したりしている。繰り返し聞かれることが多いので何度も説明し、納得いただけるようにしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活の安全を考えると利用者の希望を全てかなえるのは厳しいがその日のできる事をするようにしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>お洒落に気をつけている方でも、身体的になかなか外へ出られないので福祉美容室や地域の美容室に依頼し、事業所にきていただいている。入居者はとても喜ばれている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>イベント時や誕生日等何が食べたいのか入居者に聞き、一緒に盛り付け、配膳等し、食べる楽しみを持っていただけるように対応している。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>ご家族、医師、本人が話し合いをしたうえで事業所としては好みの時間等に合わせ支援している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状況を排泄表で把握し、時間を考えトイレへと促し、または介助している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタル測定で問題なければ、その方が入れる、入りたい時間に入れるようしているが すべての方が望む時間とは限らない。また、入っていないと訴える方がいるためカレンダーに名前を書いてもらい確認していただくようにしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の状況により、対応を変えている。日中休息をとることで生活パターンが崩れる方もいるため。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸が好きな方は花壇の手入れ等、掃除の得意な方はスタッフと一緒にいき、台所が好きな方はその場所で出来る事をしていただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望時に買物レクを計画するが家庭の事情等で使える金額の差がある。個々の範囲内でご家族に相談しながら支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴、買物や手作業等もみんなでやったり、個々で身体状況が違うので車椅子の方、自立の方で声掛けし多くの方が気分転換でき地域の一員として生活しているという実感を持ってもらうようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している			個々に外出支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族のもとや、知人についてはご家族から了解を得ている場所にかけていただいている。		不定期でも絵葉書等大切な人に送るよう支援していきたい
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の居室に案内し、ゆっくり過ごしていただくようにしている。またレクや行事へも一緒に参加していただいている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体的に例を挙げ、職員に周知徹底している。		ご家族の希望が歩かせない、怪我させないの方がいたが話し合いをし、どこでも生活していれば転倒やそれによる怪我についても在り得ることなので本人の希望も含め話し合い、統一した支援をしていきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	戸締りに執着している方がいるのでベランダはスタッフがあけ見守りしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビングで過ごしている方、居室に戻られる方、巡視や訪室による安否確認をしている。その様子を生活記録に記載し申し送るようにしている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみや針、かみそり等安全、危険の理解度を検討し、個々に対応している。		ご家族や知人が居室に置いていき、危険であることも多いのでご家族と話したり、居室整備の際等にチェックし対応していきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況の把握に努め、申し送りやカンファレンス等で話し合っって巡視回数を増やしたり、本人と話し合ったりしている。また、リスクマネジメントの講習内容等の参加や報告をしている。		説明は受けている。スタッフの目に付く場所に提示しているが訓練はしていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急対応の方法は周知されているが、訓練は出来ていない。		定期的な訓練をしていきたい。現実に緊急対応が起こったときに落ち着いて行動が出来ると考える。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路図の提示や地域の避難場所はわかるが訓練をしていない。		車椅子の方、歩行不安定な方など様々なので、定期的に避難訓練をしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状況を把握し、現状をご家族に伝え、その方らしく暮らしていくための方法を電話や手紙や面会時等にはなしあっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定、排泄表や申し送り、本人の話等でスタッフ間で周知し状態に応じて対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録を見たり、往診時に同席したり、定時薬のチェックや変更時の確認等し、申し送りや個々の記録に記載している。また、居宅療養管理 指導時にも情報の共有、変更薬の確認等している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が続く方は、水分補給や体操など動くよう声かけしたりしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	状況に応じて出来ない方のお手伝いや、毎食ではないが行っている。また、往診歯科による口腔衛生指導を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食数表や生活記録に個々の食事形態の記入やどの程度の摂取か、嗜好も含め、記入している。また、体調の変化や身体状況の低下等で今までの食事形態が厳しい場合等は医師、往診歯科衛生士に相談し形態の変更もしている。水分摂取が困難な方は種類を色々変えて嫌がらずに摂取できるよう工夫している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後、食事前のうがい、手洗いの励行、マニュアルの回覧や講習、感染症に関しては入社時に研修を行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水回りやまな板、布巾食器の消毒、洗浄、冷蔵庫の殺菌等行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ベンチやパラソルを置き、ベランダや勝手口も開放し、花壇や植木をおいている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾り付けを入居者とつくり、飾ったり、癒しの音楽を流したりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の席と決めている方も居るが、ソファを置き、くつろげるように空間を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや化粧箱、写真等いつでもお持ちいただくようにしている。馴染みの物があることで落ち着かれることがあるので個々の家族にお話している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気、温度調節している。個々の居室も本人の状態や時間帯に合わせて対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方、自立の方が動きやすいよう椅子やテーブルの位置を考えたり、している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わからないという事で混乱されたりした場合、スタッフが時間をかけ納得するまで話している。その上で出来ることを一緒に考え役割を持っていただくようにしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇に苗や種をうえ、散歩や外気浴等でお花を摘んだり、ベンチでお茶会をしたりして楽しまれている。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

あまり広くない庭に花や野菜を近所の方に教えてもらいながら植えています。入居者と職員、近所の方と草むしりや水撒き、植え替え等しています。お茶会や散歩、外気浴時には庭を眺めたり、花を摘みリビングに飾ったりと入居者の目を楽しませてくれます。今年はいちごがたくさん収穫でき、ジュースやジャムにしみんなで食べました。地域の方との交流も継続し、また、ここで暮らす方々が不安なく地域に関わり生活していけるよう共に楽しく過ごせたら。。。それが一番ではないかと。これからも職員一同支援していきたいと思ひます。